

軍艦島を観光スポットに！

● 軍艦島とは？

『軍艦島』、長崎県西彼杵郡高島町端島の別名である。戦艦『土佐』に島影が似ているために名付けられたと言われている。場所は、東経129度45分、北緯32度39分に位置し、野母半島の北西、長崎港から約18キロの海上にある。大きさは、南北約480m、東西約160m、面積は約6.3ha、周囲約1.2km、岩峻の高さ海拔47.7mという小さな島である。1810年頃石炭が発見され、佐賀藩が小規模の採炭し、明治23年に三菱が島全体と鉱区の権利を買い取り本格的な海底炭坑として、操業が開始された。しかし、国のエネルギー転換政策の推進に伴い、1974年1月に採炭を停止し、同年4月に住居者が全て島を去り、無人化した。最も人口が多かった時期には約5000人もの人々が住んでいたと言われている。人口密度が東京をも上回っていたほどである。そのために高層の鉄筋コンクリートの技術が発達したのではないかと考えられる。今現在無人島となっていて、無人化して以来建築構造物などがそっくりそのまま残っている。写真を見てわかるようにとても不思議な空間であるように感じる事が出来ると思う。また現在は立ち入り禁止となっている。

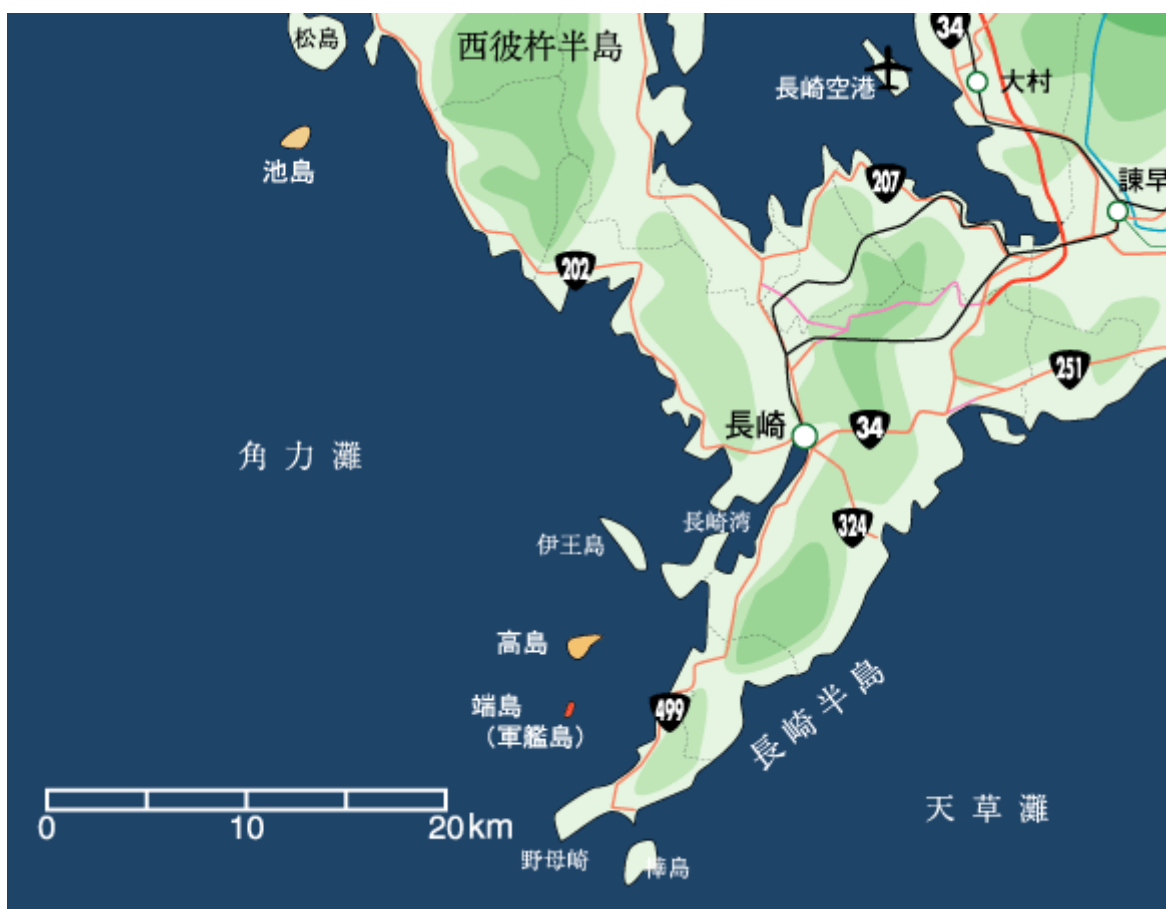
● プロジェクトの目的

現在長崎には多くの観光スポットがある。平和公園、グラバー園、稲佐山など代表されるものの他にまだ多くの観光地がある。軍艦島のような奇妙で不思議な場所が長崎だけではなく、全国を見ても数少なく貴重であるので、観光スポットとして大きな成功をもたらしてくれると思う。現在の軍艦島も観光地の1つに挙げられるのかもしれないが、内部に入ることが禁じられており外部からしか見ることが出来ない。そこで内部も見学出来るような環境を作り、より多くの人たちに軍艦島について知ってもらい興味を持ってもらい考えてもらうことが目的である。同様に観光スポットにすることで観光客の増加につながり経済効果をも計算でき、長崎県の活性化も目的の1つに挙げられる。また、長崎県をアピールするのにとても良い機会であるし、風情があるとして知られている町の違った一面を見てもらうことにより、魅力的な地になると思う。

● プロジェクトの説明

現在長崎では、1974年の野母商船定期便が廃止になり、島民が皆島を去って以来軍艦島への交通機関がなにもない状態である。そのため交通機関を設置しなければならない。現在市内では、JR、路面電車、バスなどが主な交通機関である。しかし、軍艦島は海上にあるため、専用の船を設置するのが最も良い方法だと考えられる。このような交通機関を使おうとしても不可能に近い。またどこから軍艦島につなげるかを考えてみると、軍艦島にそれほど遠くなく、長崎市の中心都市であり、観光客にも分かり易い長崎駅の近くの港である長崎港から出航させるのが最適なのではないかと思う。また軍艦島の敷地内に関しては、無人化になってから現在までの時代の経過を鮮明にあらわしている日本最古の鉄筋コンクリートの姿を見てもらいたいため工事をしたりするのは止めたほうがいいと思う。小学校、病院、幼稚園などの当時活気があった軍艦島の人々の生活ぶりを想像しやすいと思うからである。そうすることで生活だけでなくその他のことも考えることが出来るだろうし、人々の心のなかにより深く軍艦島の情景が刻まれるはずである。

◆ 軍艦島周辺の地図



◆ 軍艦島の人々が住んでいたアパート

